

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	パレスチナ西岸地区ジェニン県ザバブデ市における環境保全型有機農業の実施による高品質大麦・小麦の生産と加工食品作成による収入向上、家庭菜園の有機農法指導及び有機認証取得、植樹活動による土地の有効利用
(2) 事業内容	報告対象期間：2014年1月17日～2014年6月30日 (ア) 有機大麦・小麦の栽培、製品作成指導 第1年次に開設した、約60ドノム(6ヘクタール)の有機農場において、ザバブデ農業組合を中心とする25名の裨益者グループが、現地農業技師の指導の下、有機栽培の実践研修を継続した。昨年11月の農場開設以後、裨益者グループが大麦・小麦、野菜、豆類、ハーブ等の種子、苗木の作付けを継続的に行っている。6月には、大麦(1,633kg)、小麦(2,223kg)を収穫し、商品化に向けて製粉加工を行った。また、これまでに、計17種類の野菜、豆類、ハーブの収穫があり、これらは有機農場での直売の他、協力団体が開催しているバザーや地域のスーパーで販売されている。売上げから得られる収益は、本事業期間の終了時に、作業時間に応じて各裨益者に分配される予定で、本報告期間においては、8,185NIS(ニュー・イスラエル・シェケル、約24万円)の売上げがあった。現在、西岸内の協力団体のサポートを得ながら、更なる販路開拓に取り組んでいる。 有機農場の運営においては、裨益者の代表者、提携団体であるザバブデ農業組合、並びにマーケティングにおける協力団体である ADEL Fair Trade の各代表者から成る運営委員会を設立し、栽培や販売に関する計画の立案や、作業管理等について、定期的にミーティングを開催しており、組合の運営能力の強化に取り組んでいる。 有機認証については、現地の有機認証団体 COAP (Company of Organic Agriculture in Palestine) を通じて、認証手続きを開始した。また、同団体より専門家を講師として招き、計3回のワークショップ(1. 有機農業、2. 有機認証、3. 害虫対策)を開催し、有機認証取得に向けた裨益者グループの能力強化を図った。 (イ) 家庭有機農業(PC農法)の導入 第1年次に引き続き、裨益者である20世帯の家庭菜園において、家庭の女性を中心となり、有機農法による野菜、ハーブの栽培に取り組んだ。本報告期間においては、昨年作付けしたタイムに加えて、新たにレタス、ズッキーニ、カリフラワー、キャベツ等、地域の環境や季節に適した野菜の種子苗木の配布を行った。また、現地農業技師が、定期的に各菜園を訪問し、作物の状態確認や、灌漑、施肥、害虫対策等の技術指導を行っており、裨益者の有機農法に対する意識の向上に努めた。収穫物については、協力団体である ADEL Fair Trade が毎週ラマッラにて開催しているバザーで販売されており、本報告期間においては、4,279NIS(約12万円)の売上げがあった。収益は、収穫量に応じて、各裨益者に分配されており、家庭菜園の成果が、家計の向上に繋がりは始めていることで、裨益者の作業に対する姿勢や意欲にも向上傾向

	向が見られる。 (ウ) 女性を対象とした加工食品作成技術の指導 第 1 年次に引き続き、裨益者である 20 名の女性グループが、有機農場や家庭菜園の収穫物を、加工食品として商品化することで収入創出につなげる活動に取り組んだ。商品開発においては、協力団体であるスコットランド教会がイスラエルに設立したホテルの協力の下、事業地からの収穫物を使用したオリジナルレシピのクッキーを考案した。作成指導においても、同ホテルより講師を招き、クッキー作りのワークショップを 3 回開催した。また、マーケティングの強化及び、販路拡大に向けた取り組みとして、西岸域内外の協力団体との連携を通じて、西岸内のフェアトレードショップやバザーでの商品販売を行った他、イスラエルで行われた展示会に参加するなど、西岸内外での販路開拓を目指している。こうした活動を通じ、本報告期間においては、9 種類の商品を販売し、4,734NIS(約 14 万円)の売上げを記録した。売上げから得られる収益は、作業時間に応じて、各裨益者に分配される予定である。 (エ) 農地の有効利用を目的とした植樹 第 1 年次に引き続き、事業地の環境に適した果樹の苗木の配布を予定しており、雨期にあたる 12 月頃の配布に向けて、配布先候補地の調査を開始した。												
(3) 達成された効果	(ア) 有機大麦・小麦の栽培 <table border="1" data-bbox="512 1133 1412 1413"> <tr> <td data-bbox="512 1133 967 1200">活動①：日本人有機農業専門家及び現地農業技師の指導の下、有機大麦・小麦の栽培。</td><td data-bbox="967 1133 1412 1200"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1200 967 1413">成果：25 名の裨益者が、現地農業技師の指導の下、有機栽培の実践研修を行った。大麦・小麦の他、野菜、豆類、ハーブ、果樹等の種子、苗木の配布を行い、多様性の保全に配慮した有機農業を実践した。</td><td data-bbox="967 1200 1412 1413">達成度：参加者の理解度を事業終了時にアンケートで確認する。 (収穫量については活動③を参照)</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="512 1447 1412 1704"> <tr> <td data-bbox="512 1447 967 1514">活動②：専門家によるワークショップ等を通じての、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。</td><td data-bbox="967 1447 1412 1514"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1514 967 1704">成果：現地の有機認証団体より専門家を招聘し、計 3 回のワークショップを開催した。また、同団体を通じて、有機認証の取得手続きを開始した。</td><td data-bbox="967 1514 1412 1704">達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="512 1738 1412 2085"> <tr> <td data-bbox="512 1738 967 1805">活動③：大麦・小麦の収穫、製粉技術指導、加工製品の販売活動の実施及び、西岸域内外の市場への販路拡大。</td><td data-bbox="967 1738 1412 1805"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1805 967 2085">成果：約 3.8t (大麦：1,633kg、小麦：2,223kg)を収穫し、製品化に向けて一部製粉加工を行った。 野菜、豆類、ハーブについては、計 17 種類を収穫し、有機農場での直売の他、協力団体が開催しているバザー、地域のスーパーや市場での販売を実施している。</td><td data-bbox="967 1805 1412 2085">達成度：麦については、年間約 3 t の生産規模を目標値としているため、達成度は 126%。 売上げから得られる収益は、本事業期間の終了時に、作業時間に応じて各裨益者に分配される予定。本報告期間の売上げは、8,185NIS(約 24 万円)。</td></tr> </table>	活動①：日本人有機農業専門家及び現地農業技師の指導の下、有機大麦・小麦の栽培。		成果：25 名の裨益者が、現地農業技師の指導の下、有機栽培の実践研修を行った。大麦・小麦の他、野菜、豆類、ハーブ、果樹等の種子、苗木の配布を行い、多様性の保全に配慮した有機農業を実践した。	達成度：参加者の理解度を事業終了時にアンケートで確認する。 (収穫量については活動③を参照)	活動②：専門家によるワークショップ等を通じての、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。		成果：現地の有機認証団体より専門家を招聘し、計 3 回のワークショップを開催した。また、同団体を通じて、有機認証の取得手続きを開始した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。	活動③：大麦・小麦の収穫、製粉技術指導、加工製品の販売活動の実施及び、西岸域内外の市場への販路拡大。		成果：約 3.8t (大麦：1,633kg、小麦：2,223kg)を収穫し、製品化に向けて一部製粉加工を行った。 野菜、豆類、ハーブについては、計 17 種類を収穫し、有機農場での直売の他、協力団体が開催しているバザー、地域のスーパーや市場での販売を実施している。	達成度：麦については、年間約 3 t の生産規模を目標値としているため、達成度は 126%。 売上げから得られる収益は、本事業期間の終了時に、作業時間に応じて各裨益者に分配される予定。本報告期間の売上げは、8,185NIS(約 24 万円)。
活動①：日本人有機農業専門家及び現地農業技師の指導の下、有機大麦・小麦の栽培。													
成果：25 名の裨益者が、現地農業技師の指導の下、有機栽培の実践研修を行った。大麦・小麦の他、野菜、豆類、ハーブ、果樹等の種子、苗木の配布を行い、多様性の保全に配慮した有機農業を実践した。	達成度：参加者の理解度を事業終了時にアンケートで確認する。 (収穫量については活動③を参照)												
活動②：専門家によるワークショップ等を通じての、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。													
成果：現地の有機認証団体より専門家を招聘し、計 3 回のワークショップを開催した。また、同団体を通じて、有機認証の取得手続きを開始した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。												
活動③：大麦・小麦の収穫、製粉技術指導、加工製品の販売活動の実施及び、西岸域内外の市場への販路拡大。													
成果：約 3.8t (大麦：1,633kg、小麦：2,223kg)を収穫し、製品化に向けて一部製粉加工を行った。 野菜、豆類、ハーブについては、計 17 種類を収穫し、有機農場での直売の他、協力団体が開催しているバザー、地域のスーパーや市場での販売を実施している。	達成度：麦については、年間約 3 t の生産規模を目標値としているため、達成度は 126%。 売上げから得られる収益は、本事業期間の終了時に、作業時間に応じて各裨益者に分配される予定。本報告期間の売上げは、8,185NIS(約 24 万円)。												

	(イ) 家庭有機農業 (PC 農法) の導入 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 286 963 353">活動①：家庭菜園での有機野菜、ハーブ等の栽培。日本人有機農業専門家による指導を通じての、参加者の有機農法に対する意識向上。</td><td data-bbox="963 286 1417 353"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 353 963 600">成果：20世帯の裨益者が、有機農法による野菜、ハーブ等の栽培を実践した。収穫物は、協力団体が毎週開催しているバザーで販売し、4,279NIS(約12万円)の売上げを記録した。</td><td data-bbox="963 353 1417 600">達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。 収益は、収穫量に応じて、各裨益者に分配されており、家庭菜園の成果が、家計の向上に繋がりは始めていることで、裨益者の作業に対する姿勢や意欲にも向上傾向が見られる。</td></tr> </table> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 645 963 712">活動②：専門家によるワークショップ等を通じた、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。</td><td data-bbox="963 645 1417 712"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 712 963 891">成果：現地農業技師による定期的な訪問指導を実施。作物や土壌の状態確認、灌漑、施肥、害中対策等、有機農法における農業技術の指導を行った。</td><td data-bbox="963 712 1417 891">達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。</td></tr> </table> (ウ) 女性を対象とした加工食品作成技術の指導 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 981 963 1048">活動①：有機大麦・小麦、有機野菜を用いた加工食品の商品開発、作成指導の実施。</td><td data-bbox="963 981 1417 1048"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1048 963 1294">成果：20名の女性グループが、有機農場や家庭菜園の収穫物を使用した、加工食品の製造に取り組んだ。協力団体との協同により、有機大麦粉・小麦粉を使用した、クッキーのレシピ考案及び、クッキー作りのワークショップを3回開催した。</td><td data-bbox="963 1048 1417 1294">達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。</td></tr> </table> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 1339 963 1373">活動②：製品のマーケティング強化及び、西岸域内外における販路拡大。</td><td data-bbox="963 1339 1417 1373"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1373 963 1574">成果：関係団体との連携の下、西岸内のフェアトレードショップやバザーでの商品販売を行った他、イスラエルで行われた展示館に参加し、西岸域外での販路拡大にも取り組んだ。</td><td data-bbox="963 1373 1417 1574">達成度：本報告期間においては、9種類の商品を販売し、4,734NIS(約14万円)の売上げを記録した。収益は、作業時間に応じて、各裨益者に分配される予定。</td></tr> </table> なお、本報告期間における(ア)(イ)(ウ)の活動における収益の合計は、17,198NIS(約51万円)となった。 (エ) 土地の有効利用を目的とした植樹 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 1787 963 1821">活動②：事業地の環境に適した果樹の苗木および種子の配布。</td><td data-bbox="963 1787 1417 1821"></td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1821 963 1888">成果：配布先候補地の調査を開始した。配布は雨期に実施の予定。</td><td data-bbox="963 1821 1417 1888">達成度：400本の果樹の苗木の配布を予定している。</td></tr> </table>	活動①：家庭菜園での有機野菜、ハーブ等の栽培。日本人有機農業専門家による指導を通じての、参加者の有機農法に対する意識向上。		成果：20世帯の裨益者が、有機農法による野菜、ハーブ等の栽培を実践した。収穫物は、協力団体が毎週開催しているバザーで販売し、4,279NIS(約12万円)の売上げを記録した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。 収益は、収穫量に応じて、各裨益者に分配されており、家庭菜園の成果が、家計の向上に繋がりは始めていることで、裨益者の作業に対する姿勢や意欲にも向上傾向が見られる。	活動②：専門家によるワークショップ等を通じた、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。		成果：現地農業技師による定期的な訪問指導を実施。作物や土壌の状態確認、灌漑、施肥、害中対策等、有機農法における農業技術の指導を行った。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。	活動①：有機大麦・小麦、有機野菜を用いた加工食品の商品開発、作成指導の実施。		成果：20名の女性グループが、有機農場や家庭菜園の収穫物を使用した、加工食品の製造に取り組んだ。協力団体との協同により、有機大麦粉・小麦粉を使用した、クッキーのレシピ考案及び、クッキー作りのワークショップを3回開催した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。	活動②：製品のマーケティング強化及び、西岸域内外における販路拡大。		成果：関係団体との連携の下、西岸内のフェアトレードショップやバザーでの商品販売を行った他、イスラエルで行われた展示館に参加し、西岸域外での販路拡大にも取り組んだ。	達成度：本報告期間においては、9種類の商品を販売し、4,734NIS(約14万円)の売上げを記録した。収益は、作業時間に応じて、各裨益者に分配される予定。	活動②：事業地の環境に適した果樹の苗木および種子の配布。		成果：配布先候補地の調査を開始した。配布は雨期に実施の予定。	達成度：400本の果樹の苗木の配布を予定している。
活動①：家庭菜園での有機野菜、ハーブ等の栽培。日本人有機農業専門家による指導を通じての、参加者の有機農法に対する意識向上。																					
成果：20世帯の裨益者が、有機農法による野菜、ハーブ等の栽培を実践した。収穫物は、協力団体が毎週開催しているバザーで販売し、4,279NIS(約12万円)の売上げを記録した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。 収益は、収穫量に応じて、各裨益者に分配されており、家庭菜園の成果が、家計の向上に繋がりは始めていることで、裨益者の作業に対する姿勢や意欲にも向上傾向が見られる。																				
活動②：専門家によるワークショップ等を通じた、有機認証取得に向けた参加者の能力強化。																					
成果：現地農業技師による定期的な訪問指導を実施。作物や土壌の状態確認、灌漑、施肥、害中対策等、有機農法における農業技術の指導を行った。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。																				
活動①：有機大麦・小麦、有機野菜を用いた加工食品の商品開発、作成指導の実施。																					
成果：20名の女性グループが、有機農場や家庭菜園の収穫物を使用した、加工食品の製造に取り組んだ。協力団体との協同により、有機大麦粉・小麦粉を使用した、クッキーのレシピ考案及び、クッキー作りのワークショップを3回開催した。	達成度：参加者の理解度を、事業終了時にアンケートで確認する。																				
活動②：製品のマーケティング強化及び、西岸域内外における販路拡大。																					
成果：関係団体との連携の下、西岸内のフェアトレードショップやバザーでの商品販売を行った他、イスラエルで行われた展示館に参加し、西岸域外での販路拡大にも取り組んだ。	達成度：本報告期間においては、9種類の商品を販売し、4,734NIS(約14万円)の売上げを記録した。収益は、作業時間に応じて、各裨益者に分配される予定。																				
活動②：事業地の環境に適した果樹の苗木および種子の配布。																					
成果：配布先候補地の調査を開始した。配布は雨期に実施の予定。	達成度：400本の果樹の苗木の配布を予定している。																				
(4) 今後の見通し	事業後半には、日本人専門家の現地派遣を予定しており、有機農場、家庭菜園ともに、参加者の農業知識、技術の向上につながるよう、各																				

	専門家と調整を進めていく。 有機農場においては、参加者が地域の環境に適した良質な苗を、低コストで安定的に生産していけるよう、養苗の技術指導を実施し、農場運営における持続性の向上に取り組む予定である。また、栽培計画の立案や、作業時間、売上げの管理等、組合の運営管理体制の強化にも取り組んでいく。 本報告期間においては、事業全体として 17,198NIS(約 51 万円)の収益を上げているが、マーケティングの強化は、引続き持続性の実現に向けた課題であり、今後も品質の向上と、広報活動により注力し、本事業の成果物である有機作物や加工食品が、西岸内外で広く認知されるよう、関係団体と連携を密に取りながら進めていく。
--	---